



変化の激しい現代社会、予測困難と言われる未来へ向かう子どもたちに、たくましく生きる力、自ら思い描く幸せを自ら実現できる力を養うことが、学校の役割です。そして、学校とは、児童にとって「毎日通うのが楽しい学校」であり、保護者にとって「子どもを安心して通わせることのできる学校」であり、地域にとって「いつでも連携できる、開かれた学校」でなければなりません。

これらのことを踏まえ、学校・保護者・地域が連携しながら、子どもたちが生き生きのびのびと力を発揮できる教育環境を整え、教育活動を実践し、教育目標の達成を目指します。

学校教育目標

- ◎ 考える子ども……自ら考え判断し、表現しながら共に問題を解決する児童
- やさしい子ども…自他をいつくしみ、自然を愛し、共に支え合う児童
- やりぬく子ども…目標に向かって最後までねばり強く努力する児童
- しょうぶな子ども…心身の健康、体力向上に努め、しなやかな強い心をもつ児童

～考える子ども～

確かな学力の育成

- 自己調整学習の確立
- 基礎的・基本的な内容の定着
- 探究的な学習の充実
- 専門性を活かした教科指導
- ICTの有効活用

～やさしい子ども～

豊かな心の育成

- 考え、話し合う道徳の実現
- 人権教育の推進
- 環境教育の充実
- 特別支援教育の推進

～やりぬく子ども～

主体性の育成

- より良い学級づくりをめざす学級活動
- 主体的に取り組む学校行事
- 異学年交流の推進
- 地域に貢献できる児童の育成

～しょうぶな子ども～

健康でたくましい心身の育成

- 体育科授業の充実
- 運動習慣の充実
- 保健指導・食育の充実
- 安全指導の充実

教職員 One Team

- 確実な情報共有
- 心理的安全性の確保
- OJT、Off-JTの充実
- 働きがい改革の推進

地域と共に

- 持続可能な環境教育の充実
- iCSとの連携
- 学校教育の情報発信
- 児童の地域活動の推進

連携

それぞれの内容は、以下の通りです。

確かな学力の育成

○ 自己調整学習の導入

- ・教科や単元に応じて、自己選択、自己決定、自己調整の場面を取り入れた授業を行い、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図ります。

○ 基礎的・基本的な内容の定着

- ・「板橋区授業スタンダードS」を徹底することで学習の見通しをもち、自らに合った学び方を身に付け、主体的に学びに向かう力を育成します。
- ・算数少人数指導（習熟度別・課題別）や学力向上専門員の学習支援等により、個に応じた指導を行います。
- ・学校図書館司書や図書ボランティアと連携した読書指導の充実を図り、児童の豊かな感性や情操を育みます。（つくしタイム、読書月間の活用）
- ・「外国語科・外国語活動」のねらいを踏まえ、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、言語や文化について体験的に理解したり、コミュニケーション能力の素地を養ったりします。
- ・NIEに取り組み、活字に親しむことで、学習の基礎となる読解力・語彙力を高めます。

○ 探究的な学習の充実

- ・総合的な学習の時間や生活科を中心に、学校や地域等身近なところから課題を見出し、地域や外部の人材の活用と体験的な学習活動を取り込みながら、自力解決しようとする力を育成します。
- ・3年生以上は、「つくしタイム」を活用して午後６０分授業を行い、じっくりと探究活動に取り組むことで、粘り強く学習に向かう態度を養います。
- ・教科横断的・学年横断的な活動を取り入れ、課題に対する自力解決力の向上を目指します。

○ 専門性を活かした教科指導

- ・高学年において教科担任制を実施し、専門性の高い教科指導を実現するとともに、より多面的・多角的な児童理解の推進を図ります。

○ ICTの有効活用

- ・一人一台端末を学校や家庭にて積極的に活用します。端末内のアプリケーションを活用し、意見交換や考えの共有を効果的に実施したり、ドリル教材を用いて基礎的・基本的な知識・技能の習得を促進させたりします。

豊かな心の育成

○ 考え、話し合う道徳の実現

- ・「特別の教科 道徳」では、他者を思いやる心を育てることを重点目標として、授業の充実を図ります。

○ 人権教育の推進

- ・言語環境を整え、年間を通して「すすんで挨拶をすること」を目標に取り組みます。

○ 環境教育の充実

- ・緑のカーテン、ハーブ園、学級園等の環境を活かした環境教育をすすめ、課題解決型学習を通して持続可能な社会の担い手を育成します。

○ 特別支援教育の推進

- ・高島特別支援学校との交流活動を推進し、一緒に活動を通して障がいのある方を理解し行動する態度を養います。
- ・ユニバーサルデザインについて、体験や調査活動を通して考えを深め、「人にやさしいまちづくり」への参画の意識を高めます。

主体性の育成

○ より良い学級づくりをめざす学級活動

- ・発達段階に応じて学級活動で話し合い活動を充実させ、自分たちの力で学級・学校・（社会）づくりを行うことで、自主的・実践的な態度を育成します。

○ 主体的に取り組む学校行事

- ・子どもが主体的に取り組む機会を設け、集団で協力し、集団への所属感や連帯感を深め、よりよい自分、よりよい人間関係、より良い社会をつくろうとする力を育てます。

○ 異学年交流の推進

- ・なかよし班活動を柱に、自主性や社会性を育成します。

○ 地域に貢献できる児童の育成

- ・総合的な学習の時間や生活科を中心に、各教科・領域で、地域の歴史や文化、自然について学ぶ機会を設定し、地域を愛し、社会に貢献する態度を育てます。
- ・近隣の保幼小中との連携・交流を通して、地域社会性の向上を目指します。

健康でたくましい心身の育成

○ 体育科授業の充実

- ・運動量を確保しながら、記録に挑戦したり仲間と協力して運動することの楽しさを味わわせたりして、自らの体力を高める意識を育てます。

○ 運動習慣の充実

- ・朝や休み時間の校庭遊びを推奨し、提供する用具を工夫しながら、運動に親しむ態度と運動習慣を醸成します。
- ・短・長縄跳び週間、マラソン週間等、体育朝会や休み時間の運動週間を通して、体力向上を目指します。

○ 保健指導・食育の充実

- ・季節の行事や学校行事、各教科等につながる内容を意識的に盛り込み、児童の健康に関する興味関心を高めます。
- ・保健指導・食育に関する外部講師を積極的に活用しながら、自分の体への関心を高め、自らを大切にしている児童を育てます。

○ 安全指導の充実

- ・日常的に、「生活安全」「交通安全」「災害安全」を重視します。児童が、安全に関する情報を正しく判断し、自らの行動に結び付けるようにします。

☆ 確実な情報共有

- ・夕会や生活指導夕会、C4thの掲示板等を有効活用し、児童、教職員、施設、地域等に関する情報や、都や区の方針等、全体で報告・連絡・相談を徹底し、組織として教育活動に取り組む。

☆ OJT、Off-JTの充実

- ・各分掌の役割を明確にし、リーダーを中心に教職員が自主的に動けるようにする。
- ・主幹会や企画委員会、ペア学年を活用し、職層に合わせたOJT体制を構築する。
- ・年次研修や指導教諭の公開授業、他校の研究発表等への参加を推進する。

教職員 One Team

☆ 働きがい改革の推進

- ・配布物のペーパーレス化や会議や行事の精選、効果的な人的補助の適切な配置等を進め、仕事の効率化を図る。
- ・教職員が、学校のために新しいことに挑戦できる環境をつくり、「学校の特色づくり」を推進する。
- ・自らの将来を見据え、キャリアアップに向けた意識を高める。

☆ 心理的安全性の確保

- ・出退勤時刻、仕事量のバランス、心身の健康等を日常的に振り返り、お互いに助け合う。
- ・教職員同士で話をしっかり聞いて受け止めたり、認め合ったり、指摘し合ったりできる風土をつくる。
- ・毎月の服務防止研修で、教職員の服務に関する危機意識を高め、服務事故ゼロ、体罰ゼロを徹底する。

☆ 持続可能な地域連携の充実

- ・グリーンカーテン、ハーブ園、花壇、学級園等の栽培に、学校支援地域本部を核として地域の方々ご協力いただき、環境整備の充実とともに児童や教職員との連携を図る。
- ・ボランティアの方々による読み聞かせを充実させる。
- ・教科・単元に応じて、地域からゲストティーチャーを招き、「『本物』と出会う探究学習」につなげる。
- ・学習補助へ積極的に募集し、学習の充実を図るとともに、児童・教職員とのつながりを深める。

☆ iCSとの連携

- ・CS委員会で学校の課題を打ち出し、今年度の取組について具体的に熟議を行う。
- ・児童に地域愛や愛校心を育むための取組を実践までつなげられるよう、委員長と連携しながら熟議を行う。
- ・取組の実働部隊として、学校支援地域本部と連携できるよう、コーディネーターと調整する。

地域と共に

☆ 学校教育の情報発信

- ・学校便り（含 学年便り）、学校ホームページ、メール等の手段を有効活用し、学校の情報を保護者・地域へ積極的に発信する。
- ・学校公開日には、年間を通して様々な教育活動を参観していただけるように計画をする。
- ・各行事や学校公開日には、地域の方々も招待する。

☆ 児童の地域活動の推進

- ・総合的な学習の時間や生活科を中心に、地域や外部の人材を活用する。
- ・各学年や委員会、クラブ活動等で、地域での体験的な学習活動を積極的に取り入れる。

☆ 児童の地域行事への参画の推進

- ・寺子屋やあいキッズと連携しながら、地域行事へ積極的な参加を児童へ促し、地域の一員としての自覚を芽生えさせる。
- ・地域で活躍した児童を全校に紹介する機会を積極的に設ける。